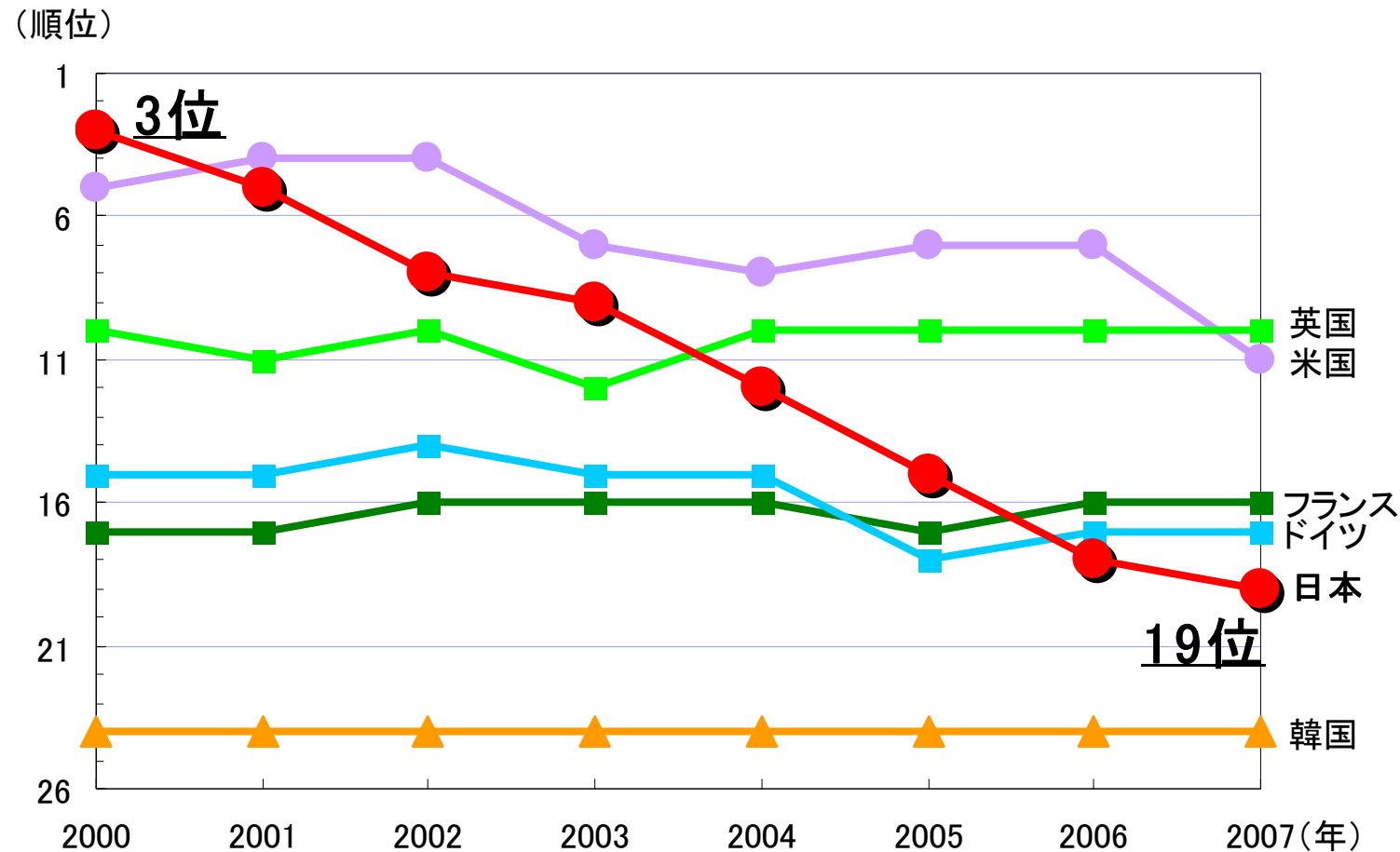


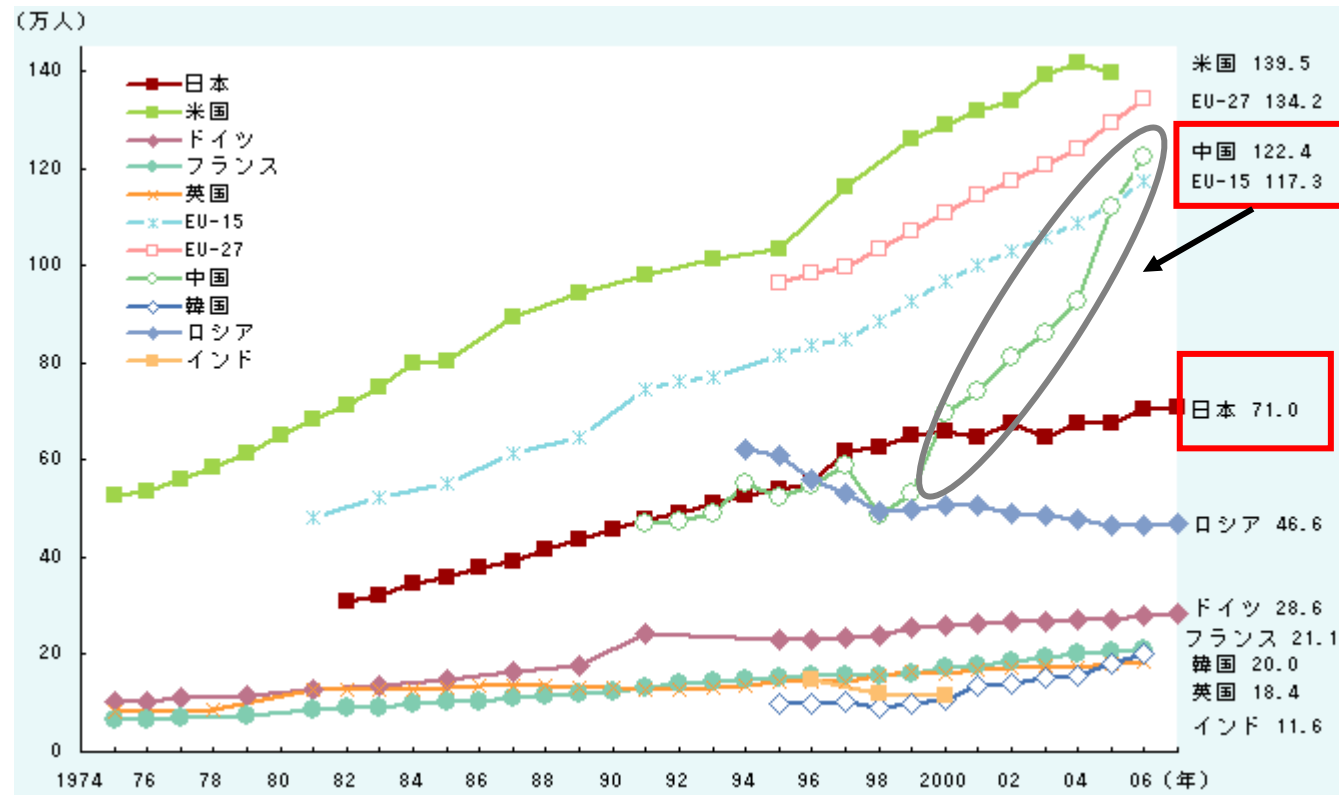
OECD諸国の一人当たりの国内総生産(名目GDP)の順位

○ 主要国の相対順位は大きな変化を示していないにもかかわらず、我が国は2000年の3位から、2007年には19位に急落。



主要国等の研究者数の推移

○ 中国の躍進が著しく、アメリカを追い抜く勢いである。



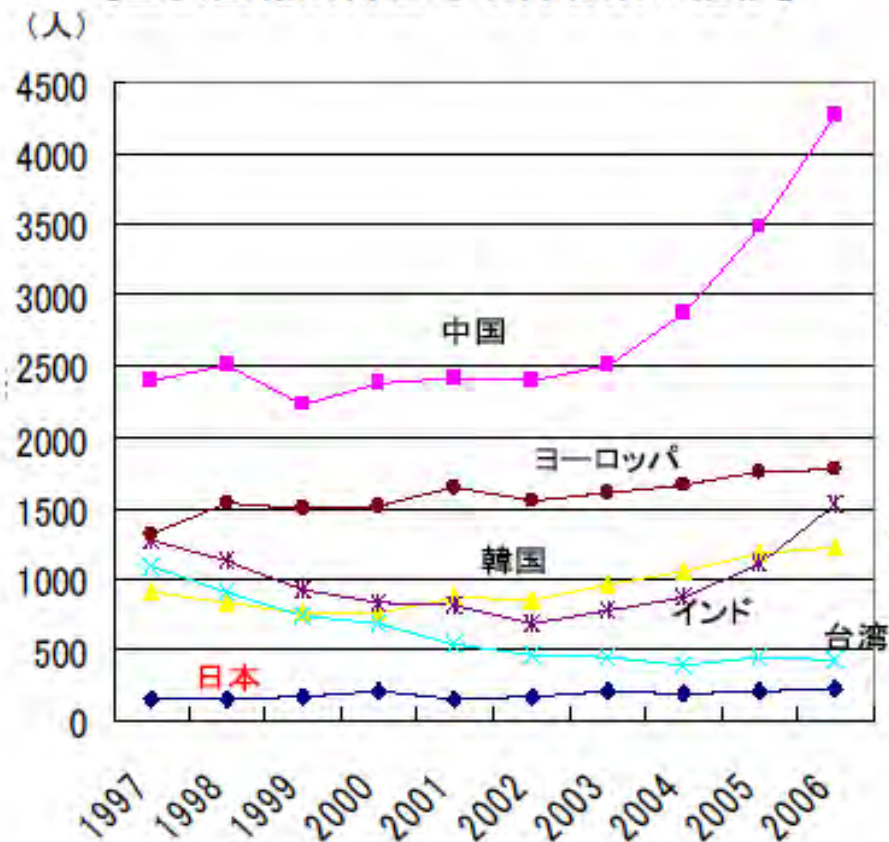
注)

1. 国際比較を行うため、韓国を除き各国とも人文・社会科学を含めている。
 2. 国際比較を行うため日本の研究者数は専従換算した値であり、1996年以前は、OECDによる推計値
 3. 日本は2001年以前は4月1日現在、2002年以降は3月31日現在
 4. ドイツの2007年は自国による推計値
 5. 英国は1983年までは産業(科学者と技術者)及び国立研究機関(学位取得者又はそれ以上)の従業者の計で、大学、民営研究機関は含まれていない。
 6. EUはOECDの推計値
 7. 中国は、OECDのフラスカティ・マニュアルに必ずしも対応したものとはなっていない。
- 資料：日本：(専従換算値)OECD“Main Science and Technology Indicators Vol. 2008/2”
その他の国：OECD“Main Science and Technology Indicators Vol. 2008/2”

米国における科学技術分野の博士号取得者の国籍

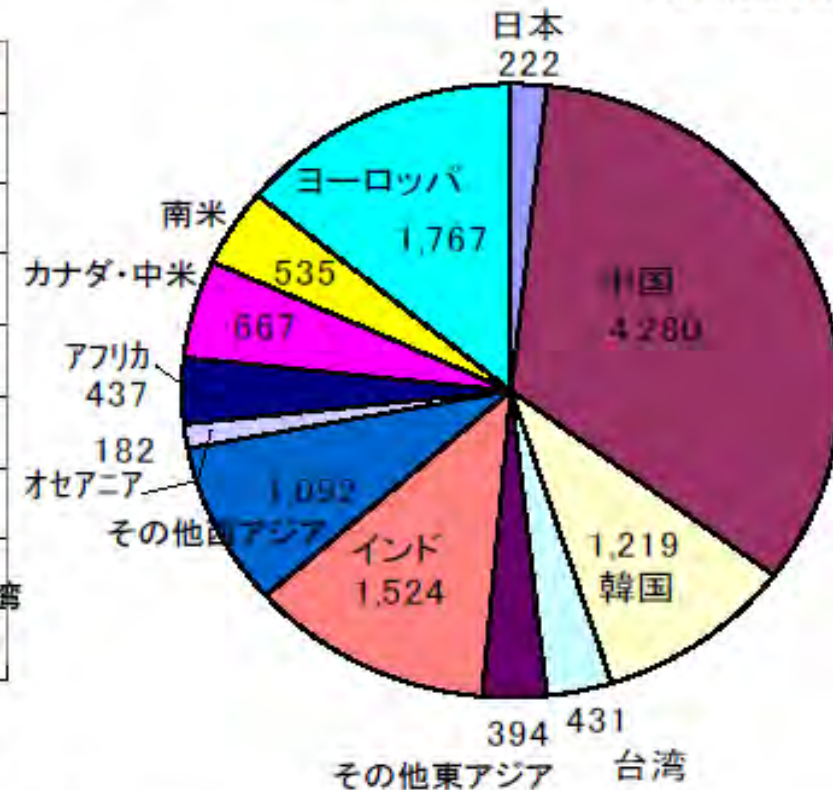
- 2002年以降、米国における中国国籍者、インド国籍者の博士号取得者数が急増。
日本国籍者は横ばい。結果、日本人の占める割合は減少。

【主要国籍別博士号取得者数の推移】



【国籍別博士号取得者数(2006年)】

※米国籍者は除く

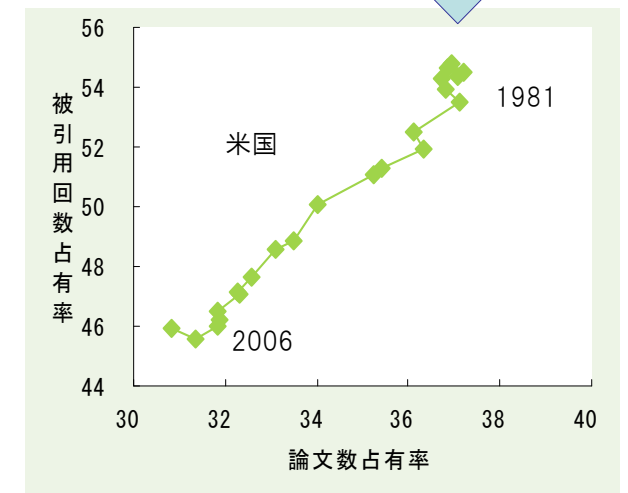
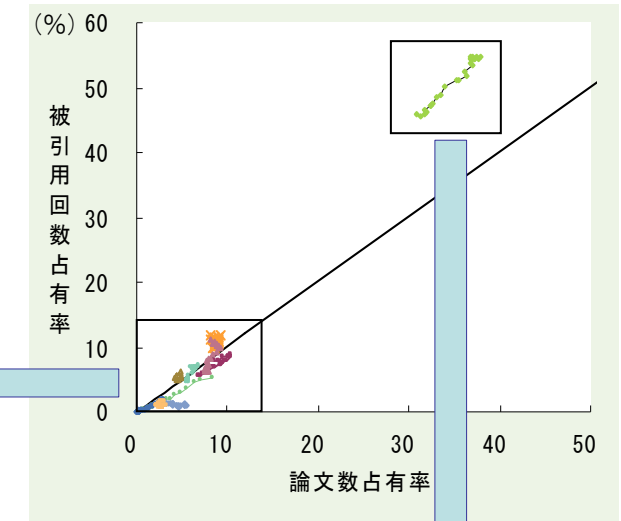
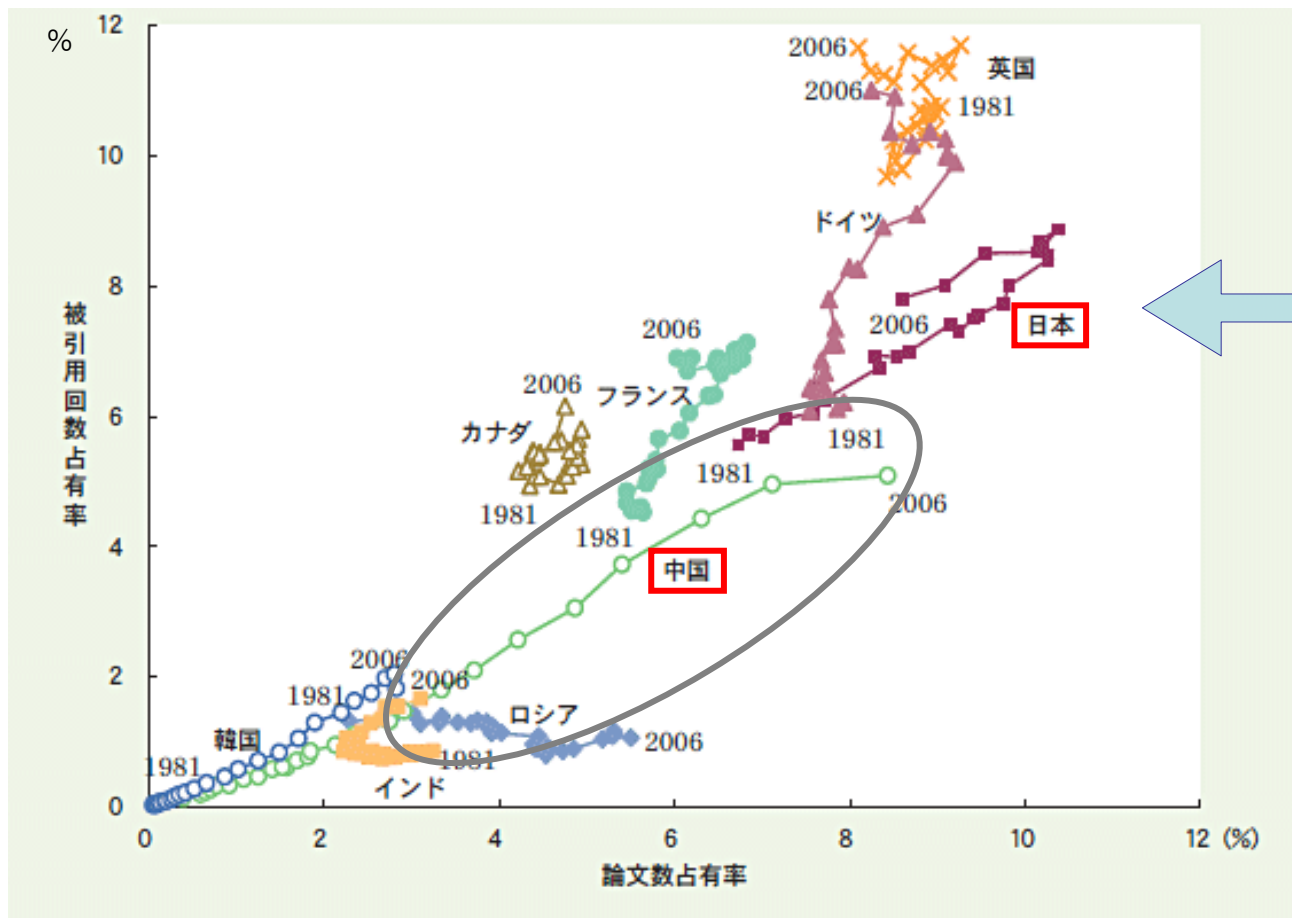


出典: National Science Foundation

Science and Engineering Doctorate Awards: 2006より作成

主要国の論文数占有率と被引用回数占有率の推移

○ 中国が躍進しており、日本が追いつかれる可能性がある。



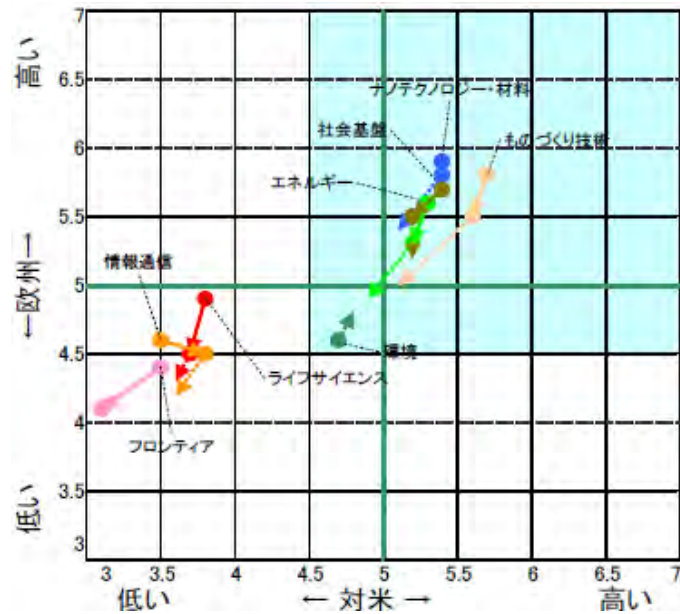
注) 1. 人文社会科学分野は除く。

2. 複数の国の間の共著論文は、それぞれの国に重複計上した。

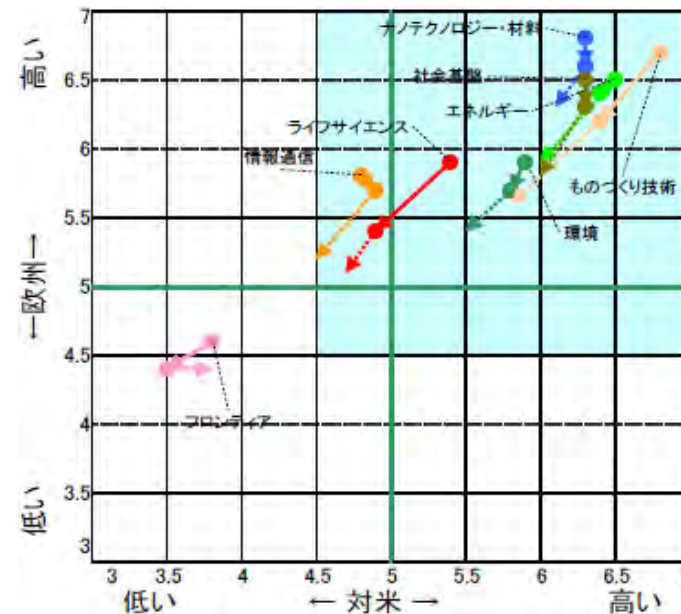
日本の相対的な水準(対米国・対欧州(上段)、対アジア(下段))

我が国の産業競争力水準に関する研究者への意識調査によると、我が国のアジア諸国への優位性は今後5年間で大きく低下することが懸念されている。特に、情報通信分野については、現時点でアジアと同等の水準、今後5力年でアジア諸国に追い抜かれることが懸念されている。

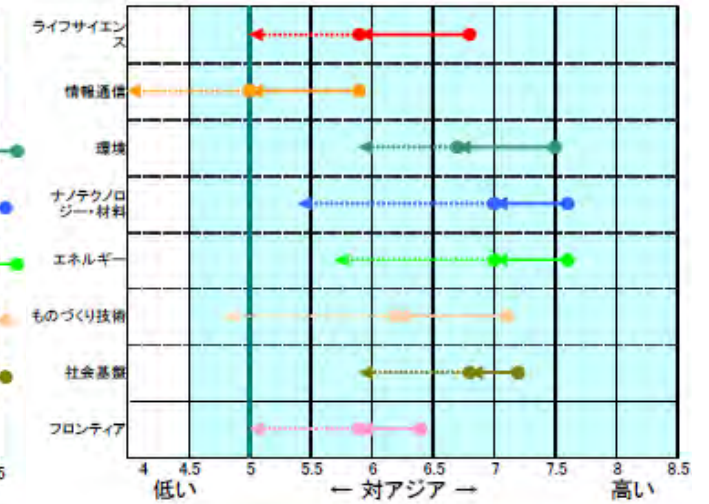
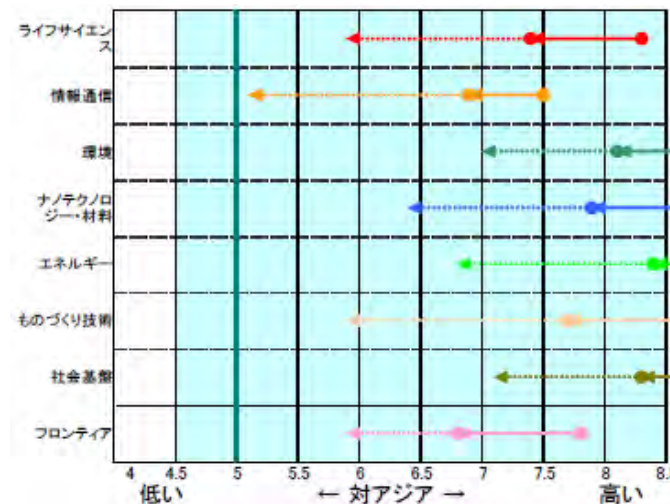
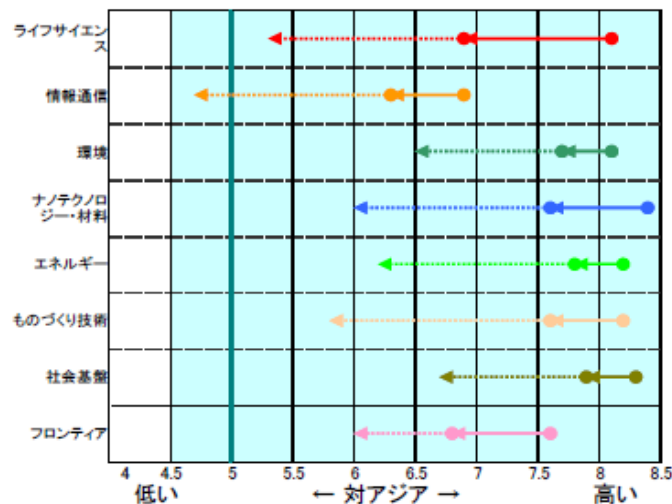
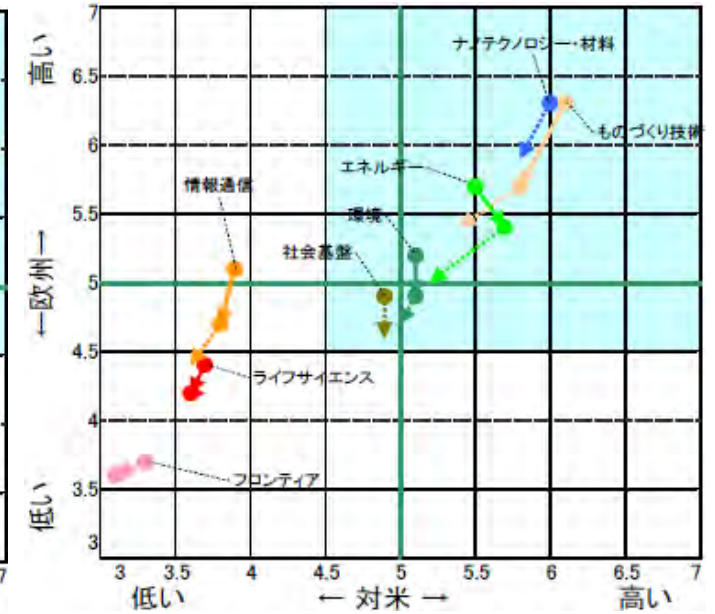
日本の科学の水準



日本の技術の水準



日本の産業の水準



* 出典: 科学技術政策研究所「科学技術の状況に係る総合的意識調査」(定点調査2009)第12回PTの資料9(定点調査2008)の更新情報。

* 実線矢印の始点が2006年時点、実線矢印の終点(点線矢印の始点)が2009年時点、点線矢印の終点が2014年時点(2009年度調査における5年後の推定)。指数が4.5~5.5の範囲にある場合は日本と比較相手国は「ほぼ同等」、指数が5.5より大きい場合は「日本の方が高い」、指数が4.5より小さい場合は「相手国の方が高い」という表現。上段は横軸を対米国縦軸を対欧州、下段は対アジアを分野ごとに表示。